

STANDARD

携帯型デジタルトランシーバー VXD1S 取扱説明書

30+5 チャンネル / 1W

陸上波 30 チャンネル
上空波 5 チャンネル
無線局種別コード：3R/3S (登録局)

防水構造

前塵防浸構造 IP67

完全防水ではありませんので、水中での使用はできません

お買い上げいただき、ありがとうございます。
正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
お読みになった後は、大切に保管してください。
このトランシーバーは国内専用モデルです。
海外では使用できません。

販売元：八重洲無線株式会社 国内営業部
開発製造：パナテックススタンダード LMR 合同会社



© 2017 パナテックススタンダード LMR 合同会社
無断転載・複写を禁ず
中国印刷

構成

- | | | | | | |
|---------------------|---|----------------------------|---|-----------------------|---|
| 本体 (VXD1S) | 1 | 安全上のご注意 / ベルトクリップ (CLP-25) | 1 | 電池パックの充電方法 (補足文) | 1 |
| リチウムイオン電池パック (BT7X) | 1 | 簡易操作ガイド | 1 | 充電用 AC アダプター (PA-57A) | 1 |
| 保証書 | 1 | 無線局登録申請の手引き | 1 | 取扱説明書 (本書) | 1 |

デジタル簡易無線登録局について

本機は陸上及び日本周辺海域で使用できる 30 チャンネル (本文中「陸上波」と表記) と、陸上と周辺海域に加え高所やスカイスポーツ等の上空でも使用することができる 5 チャンネル (本文中「上空波」と表記) 両方に対応しています。
初期値は陸上波が送信可能に設定されています。上空波を使用する場合は、裏面記載の「上空波の送信切り替え設定 (F01.TXCH)」を参照し、切り替えて運用してください。

使用範囲	ARIB 種別コード	周波数	チャンネル数
陸上及び日本周辺海域	3R	35 1MHz 帯	30
陸上及び日本周辺海域それらの上空	3S		5

上空波チャンネルの運用について

上空で利用する場合には、CHS1～CHS5 の通話チャンネルを使用してください。上空で CH1～CH30 の通話チャンネルを使用すると電波法違反になります。近傍にてパラグライダーや気球などの飛行をしている場合には、上空波を用いて通話を行っている場合があります。CHS1～CHS5 の 5 チャンネルは上空利用ができる貴重なチャンネルですので、通常の陸上局間のみでの通信には上空波の使用を避け、陸上波を使用するようご協力をお願いします。

コールチャンネルについて (陸上波専用)

“CH15.CALL” は、呼び出し専用のチャンネルです。
ユーザーコード (UC) は自動的に “000” に設定され、秘話通信は自動的に解除されます。

注意 コールチャンネルは一時的な呼び出しのみに使用し、継続的な通話は他のチャンネルで行うようにしてください。

補足 コールチャンネルでは [MODE] キーが無効になります。ユーザーコードや秘話通信の設定はできません。

通信時に動作する機能に関して

キャリアセンス機能

基準値以上の強さの電波を受信している場合は、混信を防止するために、送信を禁止する機能です。
送信禁止時はディスプレイに “WAIT” が表示され、「ビビッ」と警告音を繰り返し送信することができます。受信を示す LED インジケータが消えてから再度送信を開始してください。

補足 “WAIT” 表示の状態でも PTT (通話) スイッチを押し続けると自動で、受信電波がなくなり次第 “WAIT” 表示がチャンネル表示に切り替わり自動的に送信状態になります。

本機は、デジタル簡易トランシーバー登録局としてキャリアセンス機能を搭載しており、電波法および ARB 規格により、送信ごとにキャリアセンス機能が動作します。

通話中の「ビビビ」音

本機の連続送信時間は“5分”で、約4分50秒で予告音「ビビビ」が鳴ります。送信中に「ビビビ」という電子音が鳴った場合、速やかに通話を終了してください。送信を継続すると約10秒後に自動的に送信が止まり、通話が中断されます。
なお、自動的に送信が中断された場合、その後1分間は送信することができます。

キー操作早見表

キー/スイッチ/ツマミ	まわす	押し	動作
電源スイッチ (音量ツマミ)	電源 ON/OFF (音量調節)	—	—
MODE	—	キーロック	通信設定
▲	—	早送り (チャンネルアップ)	チャンネルアップ
▼	—	早送り (チャンネルダウン)	チャンネルダウン
PTT	—	送信	送信
プログラマブル	—	スクリーンショット登録 (初期値) / 緊急モード	プログラマブルキー
MODE+電源スイッチ	設定モード	—	スクリーンショット (初期値) / ファクトリリセット / ディスプレイライト

登録申請 / アフターサービスについて

本機をご使用になるには、電波法で定められている「無線局登録申請」を行い、登録状の交付を受ける必要があります。
本機をご使用になる前に、別紙「無線局登録申請の手引き」を参考にして、必ず登録申請を行い、登録状の交付を受けてください。

注意 登録状の交付を受けずに本機を運用し、電波を出した場合、電波法第9章 110条に定められた罰則 (一年以下の懲役又は百万円以下の罰金) が適用されますので、必ず無線局登録申請を行い、登録状の交付を受けた後に運用を行ってください。

ご利用にあたって

- 本機は、技術基準適合証明を取得し、他社のデジタル簡易トランシーバー (種別コード3R) および「3S」との互換性を確保していますが、デジタル簡易無線規格において製造者定義となっている一部機能については (例：個別呼び出しなど)、互換性ありません。
- 本体背面に貼り付けてある「証明ラベル」を剥がしたり、「分解」や「改造」を行うことは、法律で禁止されています (総務省令、特定無線設備の技術基準適合証明に関する規則)。
- 他人の会話を聞いて、その内容を漏らすと法律で罰せられることがあります (電波法第59条、電波法第109条)。
- 本説明書には、ご購入時の状態 (初期値) の標準的な設定での説明が記載されています。

免責事項

- 取扱説明書に記載の使用方法とは異なる使用方法により発生した故障、障害、損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本機を使用するに生じた障害や損害について、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いません。

アフターサービス

正常なご使用状態で万一故障した場合は、お手数ですがお買い上げいただきました販売店または八重洲無線株式会社国内営業部にご相談ください。

八重洲無線株式会社
国内営業部
〒140-0002 東京都品川区東品川2-5-8 天洲パークサイドビル
電話：03-6711-4055

準備

電池パックを入れる / 取り出す

- ロックスリッパを右側のスライドし、フタを外します (①)。
- 電池パックの VS ロックを上にして電極側から差し込みます (②)。
- フタのツマミがある部分から差し込みます (③)。
- ロックレバーを赤印が見えなくなるまで左側にスライド (←LOCK の刻印方向) し、フタを確実にロックします (④)。

注意

- フタを確実にロックしないと IP67 の防水性能は維持されず故障の原因になります。
- 電池パックのシールを剥がさないでください。
- 完全に充電した状態からディスプレイに [電池残量約 50%] が表示されるまで使用してから保管する。
- 長期保管 / 保管後は電池容量が低下していることがあるので、必ず充電してから使用する。
- 過放電を防止するため、半年に一回、補充充電 (90%程度) をする。

ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップ上面の凸部分とトランシーバー上面の凹部分に合わせ、ベルトクリップ1に装着されているビスで確実に取り付けます。

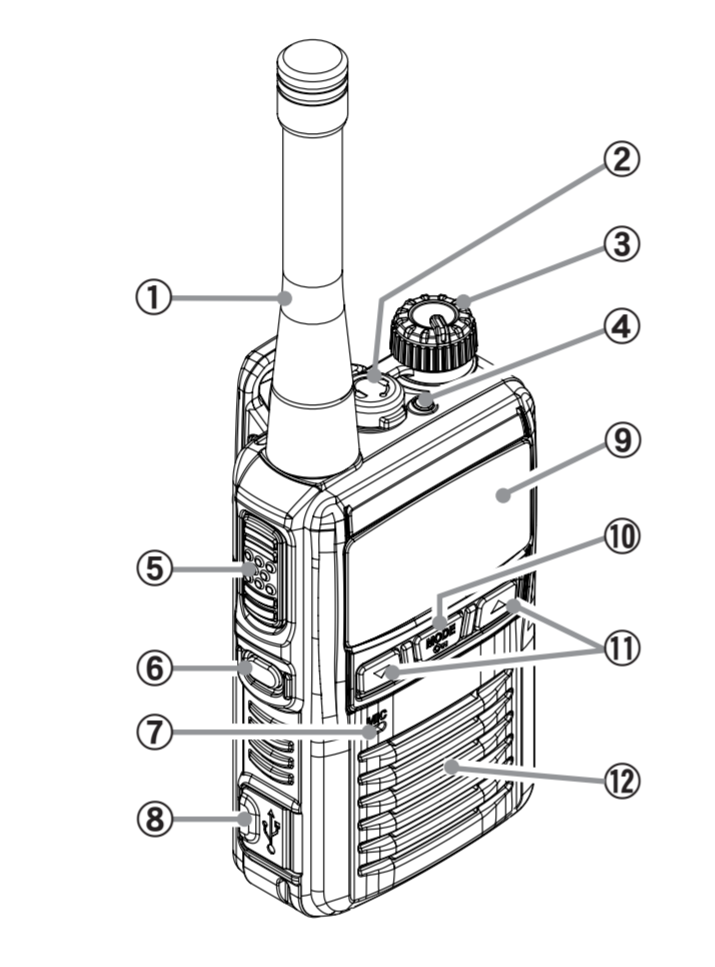


ハンドストラップの取り付け

先端の取り付けも約 1mm タイプの丈夫なストラップを取り付けてください。



各部の名前と機能



- アンテナ**
上空波送信対応のため、法令により外せません。
- MIC/SP 端子**
MIC/SP 端子キャップを外して、スピーカーマイクなどのオプションを接続します。
- 電源スイッチ / 音量調節ツマミ**
電源の ON/OFF と音量の調節をします。
- LED インジケータ**
動作状態を視覚的にわかりやすく確認できる三原色の LED で動作状態を表示します。

- PTT (通話) スイッチ**
押し続けている間、トランシーバーは送信状態になります。放すと待ち受け / 受信状態になります。
補足 設定モード “F08.PTHLD” で、ホルト機能付き PTT (通話) スイッチに変更することができます。

電池パックについて

電池パック (BT7X) は、使い切らずに規定し充電可能なリチウムイオン電池パックです。運用する時は満充電にしてからご使用ください。なお、満充電の状態でも再度充電をすると過充電となり電池の寿命を短くする原因になりますのでご注意ください。

電池パックの使用条件

- 周囲温度が -10℃ ~ +60℃ の範囲内で使用してください。低温になるほど電圧が低下し使用時間が短くなります。

電池パックの保存方法

- 周囲温度が 20℃ ~ +35℃ の、腐食性ガスのない湿度の低い乾燥した場所で保存してください。
- 高温の場所で保管すると、変化の進行を早めることがあります。なるべく低温状態で保管してください。
- 長期保管 / 保管するときは、次のことを守ってください。
 - トランシーバーから電池パックを外す。
 - 満充電または完全に使い切った状態にしない。
 - 満充電した状態からディスプレイに [電池残量約 50%] が表示されるまで使用してから保管する。

電池パックの特性について

- 過充電 / 過放電などの無理な条件が重なると寿命が短くなります。
- 電池パックは消耗品です。充電電を繰り返すと使用できる時間が徐々に短くなります。
- 満充電にしてでも持続時間が短くなってきたときは電池パックの寿命ですので、早めに新しい電池パックをお買い求めください。

電池パックのお手入れ

- 側面の端子を定期的に綿棒等で拭いてください。
- 電池パックが濡れた場合には、シンナーやベンジンなどを使わず、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

使用済みの取り扱い

- 電極端子をセロハンテープやビニールテープ等で絶縁してください。
- 電池パックはリサイクルできますので、廃棄せずに、全国のリサイクル協力店、協力自治体、リサイクル協力業者にご相談ください。

電池パックの持続時間を延ばすには

VXD1S は小型軽量ながら一回の満充電で約 10 時間の運用を行うことができます。また VXD1S は、持続時間をさらに延ばすことができるスーパーセーブ機能 (設定モード：F10.SSAVE 参照) の搭載により、持続時間を約 3 時間延長することができます。また送信出力を三段階に切り替えることができますので、1W 運用から 0.5W または 0.2W のローパワーに切り替えて (設定モード：F05.TXPWR 参照) 運用することで、さらに持続時間をアップすることができます。

電池パック BT7X の持続時間*	
スーパーセーブ機能 “OFF”	約 10 時間
スーパーセーブ機能 “ON”	約 13 時間

*電池持続時間は常温 / 常温：「送信出力 1W 時、送信 5：受信 5：待ち受け 90」の測定

注意 極度に高温または低温の場所は持続時間が短くなります。

電池パックの充電方法

充電の仕方は、3種類の方法があります。下表は電池パックを十分使い切った状態での充電時間になります。

充電方法	充電時間
トランシーバーに付属の AC アダプターを接続して充電する。	約 160 分
オプションの急速充電器 (電池パックトランシーバーに挿入して充電する。CD-63 で充電する)。(電池パック本体で充電する。	約 180 分

*：別紙の「安全上のご注意 / 電池パックの充電方法 (補足文)」：オプションの急速充電器 CD-63 で充電する」を参照してください。

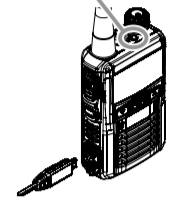
補足 電池パックをお買い上げいただいたとき、または長い間使用しなかったときは、充電してからお使いください。

お使いになるときの注意

- 充電をするときは、トランシーバーの電源を切ってください。電源を入れたままの状態でも充電をせず、スピーカーから AC アダプター等のノイズが聞こえることがあります。また、規定の充電時間よりも長く掛かる場合があります。
- 付属の AC アダプターの代わりに市販の USB ケーブルでパソコンの USB 端子に接続して充電することは可能ですが、なるべく付属の AC アダプターで充電することを勧めます。
USB ケーブルで充電する場合、USB2.0 以上 (出力電流：500mA 以上) の USB 端子に接続して充電してください。この場合、付属の AC アダプターより充電時間が長くなります。市販の USB ケーブルはスマートフォン用のマイクロ USB ケーブルを使用してください。粗悪なケーブルを使用すると充電できないことがあります。
- 当社指定の充電機器以外 (市販の USB ケーブル等) のものでも使用できますが、それらが原因の不具合等については保証対象外になります。トラブルが原因で生じた故障や破損、および事故などの損害については、当社では一切責任を負いません。
- 規定の充電時間以上経っても充電できない場合は、すぐに充電を終了してください。電池パックの寿命です。新しい電池パックに交換してください。
- 充電中に充電器やトランシーバー、AC アダプターが発熱する場合がありますが故障ではありません。
- 充電中にテレビやラジオにノイズが入ることがあります。できるだけ離してください。

トランシーバーに AC アダプターを接続して充電する (充電時間：約 160 分)

- トランシーバーの電源をオフにし、側面にある USB 端子のキャップを開けて、付属の AC アダプターのコネクタを差し込みます。
- AC アダプターの電源プラグを AC コンセントに差し込みます。確実に差し込まれると、トランシーバーの LED インジケータが青色に点灯し充電を開始、充電が完了すると消灯します。
- 充電完了したらトランシーバーから AC アダプターを外して、USB 端子のキャップを閉めます。



*：電池パックを入れたままに、解決しない場合は、電池パックの寿命です。

通話のしかた (基礎編)

- 電源を入れます。
補足 電源スイッチを右にまわすと、電源が入ります。ディスプレイに起動画面が約 10 秒間表示され「ビビッ」と電子音が鳴り、ディスプレイに現在のチャンネルが表示されます。
- 音声を調節します。
音量調節ツマミを 10 ~ 11 時の位置にあわせておき、その後は相手の音声が最適な音量になるよう、音量調節ツマミを調節します。
- ▲または▼キーを短押しして、チャンネルを合わせます。▲キーを押し続けるとアップ方向に早送ります。▼キーを押し続けるとダウン方向に早送ります。
補足 “CH01” にあわせて時、「ボビビ」というピー音が鳴ります。早送りの際は、ピー音と同時に停止します。トランシーバーを離す状態で「CH01」を確認することができます。

陸上波チャンネル
CH01 → CH02 → CH15.CALL → CH29 → CH30
上空波チャンネル (初期値：受信のみ)
CHS5 → CHS4 → CHS3 → CHS2 → CHS1

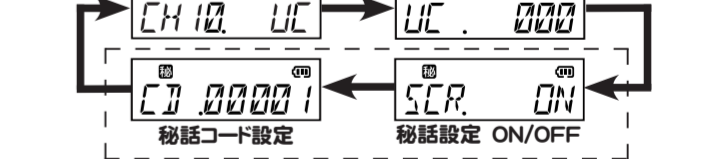
- 送信 (通話) スイッチを押しながら、マイクに向かって話します。
補足 送信中 “T” が点灯します。近距離で送信する場合は、「送信出力の設定」を参照し、送信出力を “MD” または “LOW” に切り替えることができます。
- 相手の音声を受信します。
PTT (通話) スイッチを放すと、相手の話を聞くことができます。「送信出力の設定」を参照して “MD” または “LOW” に切り替えることができます。送信開始直前には、混信を防ぐためキャリアセンス機能が自動的に動作します。
- マイクと口元の間隔は、5cm 位が適度で、普通の声で話します。マイクと口元の距離が近かったり、声が大きかったりすると、音声が割れたり、歪むことがあります。
- 送信中は、LED インジケータが青色または青色に点灯します。
- 連続送信時間は 5 分以内と電波法で定められています。本機では送信を開始してから約 4 分 50 秒後に「ビビビ」と警告音が鳴ります。5 分が経過する前に自動で送信が止まり、待ち受けの状態に戻ります。その後 1 分間は送信禁止状態になります。警告音が鳴った際は、速やかに送信を中止してください。

- 電源を切ります。
電源スイッチを「カチッ」と音がするまで左にまわし切ると、電源が切れます。一週間に以上使用しない場合は、電池パックが消耗しないよう、トランシーバーの電源を切り、トランシーバーから電池パックを外してください。

秘話通信機能 (応用編)

盗聴されるのを防止する機能です。秘話機能を利用する際は、秘話コードの設定が必要です。32767 通りの秘話コードがあり、秘話コードが一致するトランシーバー同士のみ送信することができます。
初期値は、秘話コードが “00001” に設定されていますが、ご使用の際に通話セキュリティを十分に確保するためには、下記の方法で再設定することをお勧めします。なお、設定した秘話コードは全てのチャンネルで共通になります。

注意 チャンネル “CH15.CALL” のときは、MODE 設定は無効になり秘話機能の設定はできません。秘話機能を設定する場合は、他のチャンネルに設定してから行ってください。



- [MODE] キーを 2 回短押しして、「SCR.OFF」を表示させます。
- ▲または▼キーを短押しすると、「SCR.OFF」が点滅します。
- ▲または▼キーを短押しして“SCR.ON”にあわせて、ディスプレイに [KEY LOCK] が表示され “On” が点灯し、キーがロックされます。
- 点滅中に [MODE] キーを短押しするか、約 5 秒間放置すると、ディスプレイに [秘話コード] が点滅し、秘話機能が設定されます。
- [MODE] キーを押して、「000001」を表示させます。
- ▲または▼キーを短押しすると、「00.00001」の 5 桁目が点滅します。
- ▲または▼キーを短押しして、00001 ~ 32767 から希望のコードに設定します (相手も同じコードに設定します)。
[プログラマブル] キーを短押しすると桁が移動します。
- 点滅中に [MODE] キーを短押しするか、約 5 秒間放置すると秘話コードが確定しチャンネル表示に戻ります。または、点滅中に PTT (通話) スイッチを押すと秘話コードが確定して送信することができます。

キーロック機能

誤って各キーを押しても、設定が変わらないようにキーをロックします。
[MODE/On] キーを長押しします。ディスプレイに “KEY LOCK” が表示され “On” が点灯し、キーがロックされます。
補足 キーロックが動作中に各キーを押すと、ピー音が鳴ると同時に “KEY LOCK” が表示され、ロック中であることを知られます。
キーロック機能は “前面” の [▲] [▼] [MODE]、及びプログラマブルキーのスクリーンに有効です。
キーロック動作中に有効なチャンネルやキー、ツマミは下記を参照してください。
・電源スイッチ / 音量調節ツマミ
・PTT (通話) スイッチ
・プログラマブルキー (緊急アラーム設定時のみ)

●ロックを解除するには
ロックが動作中に [MODE/On] キーを長押しします。ロックが解除され、ディスプレイの “On” 表示が消えます。

UC (ユーザーコード) 通信機能 (応用編)

ユーザーコードの設定

チャンネル設定 → ユーザーコード確認 / 設定 → 秘話コード設定

```
CH 10 UC → UC . 0000 → SCR. OFF → UC . 1234
```

- [MODE] キーを 2 回短押しして、「UC. xxx」を表示させます。
補足 個別通信に設定している場合は、[MODE] キーを 4 回短押しして、「UC. xxx」を表示させます。
○ “xxx” の部分は、現在設定されているユーザーコードが表示されます。
初期値は “000” が設定されています。
- ▲または▼キーを短押しします。
- ユーザーコードが点滅中に ▲または▼キーを短押しして、希望のユーザーコードに設定します。
[プログラマブル] キーを短押しすると桁が移動します。
補足 設定できるユーザーコードは “000” ~ “511” です。
- 点滅中に [MODE] キーを短押しするか、約 5 秒間放置するとユーザーコードが確定しチャンネル表示に戻ります。または、点滅中に PTT (通話) スイッチを押すとユーザーコードが確定して送信することができます。
補足 設定したユーザーコードは全てのチャンネルで共通になります。

補足 ユーザーコードは、3桁の数字で構成されていて、「000」～「511」の間で決めることができます。
○ユーザーコード “000” は、共通ユーザーコードとして扱われ、受信時はコードが異なる番号も受信できますが、送信時は “000” を設定している相手としか通信することができません。
○UC 通信方式は、ARB 規格で規定されており、種別コード 3R 及び 3S の他社製デジタル簡易無線トランシーバーと通話互換があります。

設定モードで行う機能

設定モード一覧表 / 操作方法

項目	表示	初期値	設定値	機能
C01 通信方式	C01. CLMOD	UC	UC/PR	通信方式の選択
C02 自局ID	C02. MY-ID	001	001 ~ 200	自局IDの設定
C03 グループID	C03. MYGID	01	01 ~ 30	グループIDの設定
F01 送信チャンネル	F01. TXCH	LAND	LAND/SKY	陸上波 / 上空波の選択
F02 ビープレベル	F02. BEEP	08	00 ~ 15	操作音(ビープ音)の音量設定
F03 外部マイク感度	F03. EXMIC	LV 0	-18/-12/-6/-3/0/+3/+6/+10	外部マイクの感度設定
F04 内部マイク感度	F04. INMIC	LV 0	-18/-12/-6/-3/0/+3/+6/+10	本体内部マイクの感度設定
F05 送信出力	F05. TXPWR	HIGH	OFF/LOW/MID/HIGH	送信出力の設定
F06 緊急アラーム機能	F06. EMERG	OFF	EMRTX/EBEEP/OFF/BP+T/SILNT	緊急アラーム機能の動作設定
F07 自動電源オフ	F07. AT-PO	OFF	OFF/ON	電源切れ忘れ防止機能の設定
F08 PTT ホールド	F08. PTHLD	OFF	OFF/ON	PTT ホールド動作の設定
F09 外部スピーカー設定	F09. E-SPK	STD	STD/OPT	スピーカーマイクの特性補正
F10 スーパーセーブ	F10. SSAVE	OFF	OFF/ON	電池/バックの持ち時間をセーブ
F11 プログラムプキー	F11. P-KEY	SCAN	SCAN/LIGHT/MUTE	プログラマブルキーの設定
F12 スキャンチャンネル	F12. SCANM	CH15	CH01 ~ CH55	スキャンチャンネルの設定
F13 スキャン受信設定	F13. SC-RX	ON	ON/OFF	スキャン機能の着信後のスキャン再開設定
S01 シリアル番号確認	S01. S/N	-	-	販売店および営業所サービス確認用
S02 CSMコード確認	S02. CSM	-	-	販売店および営業所サービス確認用
F99 設定リセット	F99. RESET	OFF	OFF/ON	各種設定を初期値(ご購入時の状態)に戻します

- 一度電源を切り、[MODE]キーを押しながら電源を入れたら、「VXD1S」→「SET.MODE」が表示されます。その後、設定モードの「C01.CLMOD」が表示され、[MODE]キーを戻します。

補足 [MODE]キーを長押しするごとに設定モードの項目を後退します (F01. TXCH → C03. MYGID →)。
- [▲]または[▼]キーを押して、設定値を選択します。[MODE]キーを長押しすることで、選択をキャンセルすることができます。

補足 「C02.MY-ID」を設定する場合は、[プログラムプ]キーを押すごとに桁移動ができます。
- [MODE]キーを短押しして確認します。必要に応じて、同様に他の項目を設定します。その後電源を切り設定は終了します。



個別通信を行う (C01. CLMOD ~ C03. MYGID)

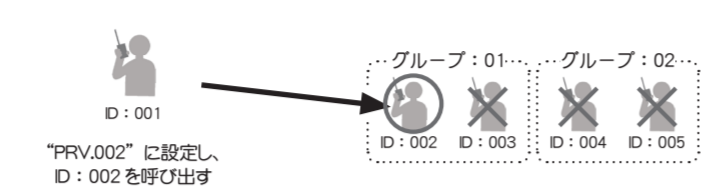
個別通信とは

特定の相手局だけを呼び出し、自局と同じグループの呼び出しやグループに関係なく一斉に呼び出して通話することができます。

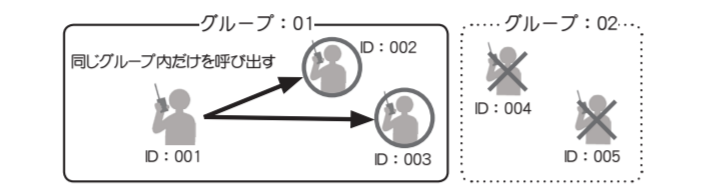
個別通信を行う前の準備:

- 設定モード「C01.CLMOD」を「PR」(個別通信)に設定します。
- 設定モード「C02.MY-ID」で「001 ~ 200」から、各トランシーバーに違うIDを設定します。
- 設定モード「C03.MYGID」で「01 ~ 30」から、自局グループのIDを設定します。
- 全員が同じチャンネルに設定します。
- 全員が同じユーザーコードに設定します。
- 秘話機能を使用する場合は、全員が同じ秘話コードに設定します。

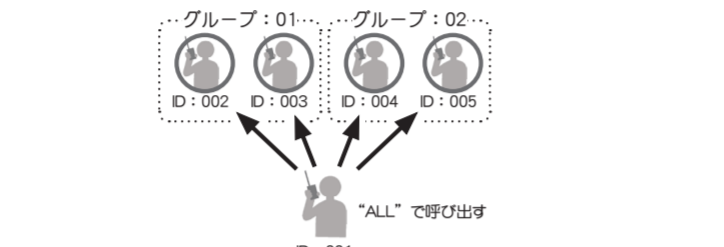
特定の相手局だけを呼び出す (PRV)



自局と同じグループだけを呼び出す (GRP)



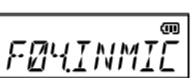
一斉に呼び出す (ALL)



内部マイク感度の設定 (F04. INMIC)

トランシーバー本体に内蔵してあるマイクの感度を設定します。

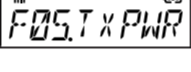
(低) -18 ⇨ -12 ⇨ -6 ⇨ -3 ⇨ 0 (初期値) ⇨ +3 ⇨ +6 ⇨ +10 (高)
+ 感度が上がります / - 感度が下がります



送信出力の設定 (F05. TXPWR)

送信出力(放射する電波の強さ)を「HIGH」(1W)、「MID」(0.5W)、「LOW」(0.2W)から選択することができます。距離の近い相手と交信するときは、送信出力を「MID」または「LOW」に設定してください(ディスプレイに「L」が点灯します)。また、本機を受信専用機として使用する場合は「OFF」に設定してください。

OFF	PTT(通話)スイッチを押しても、送信しません(受信専用)。
LOW	送信出力が0.2Wに設定されます。
MID	送信出力が0.5Wに設定されます。
HIGH(初期値)	送信出力が1Wに設定されます。

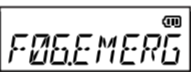


緊急アラーム機能の設定と使用方法 (F06. EMERG)

設定モードによる準備

[プログラマブル]キーを長押しすることで、緊急事態をアラーム音とLEDインジケータの表示で周囲に知らせたり、緊急信号を送出して他の仲間にも知らせることができる機能を設定します。

EMRTX	自局のIDを含んだ緊急信号を送信します。また、緊急動作中にPTT(通話)スイッチを押すと、相手局と通話することができます。補足: この設定は、PR (個別)通信方式時のみ動作します。UC通信方式の場合「ボボ」2とエラー音が鳴り、何も動作しません。
EBEEP	トランシーバーのスピーカーから、緊急アラームを鳴らします。
OFF (初期値)	緊急アラーム機能は動作しません。補足: [プログラマブル]キーの長押し操作がスキャンチャンネルの登録確認として動作します。
BP+T	「EMRTX」の動作を行った後、「EBEEP」の動作を行います。補足: この設定は、PR (個別)通信方式時に使用しますが、UC通信方式時に使用した場合は「EBEEP」の動作のみ行います。
SILNT	サイレント状態で緊急信号を送信します。ディスプレイ表示とLEDインジケータは緊急動作中も点灯しません。また、緊急動作中にPTT(通話)スイッチを押すと、相手局と通話することができます。補足: この設定は、PR (個別)通信方式時のみ動作します。UC通信方式の場合「ボボ」2とエラー音が鳴り、何も動作しません。



緊急アラーム機能を使用する

[プログラマブル]キーを長押しします。



緊急信号を受信したとき:

PR (個別)通信方式で緊急信号を受信すると、ディスプレイに緊急信号を発信した局のIDを表示し、LEDインジケータが白色で点滅し緊急受信モードになります。さらに、しばらく何も操作をおこなわないと、電子音が鳴り続けます。

- 電子音は、いざりれかのキーを押すと止まります。
- [プログラマブル]キーを押すと、緊急受信モードは解除されますが、再び緊急信号を受信すると、再度電子音が鳴りLEDインジケータが点滅します。

緊急信号を受信したときに、PTT(通話)スイッチを押して送信すると、自動的に「一斉呼び出し」(同じチャンネルにありながら、全ての局を呼び出す)に切り替わります。

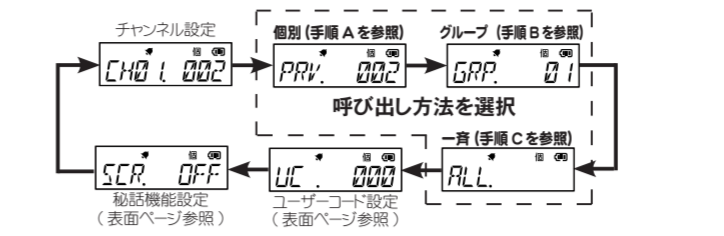
緊急アラームの動作を停止する:

電源スイッチを左にまわし切り、電源を切り切ります。

呼び出しを行う

個別通信のしかた:

待ち受けの状態では呼び出し方法を呼び出す。[MODE]キーを何度か短押しして、呼び出し方法を選びます。[MODE]キーを短押ししてから5秒間放置するとチャンネル表示に戻ります。



手順A 特定の相手だけを呼び出す (PRV)

- 呼び出したい相手局の個別番号 (PRV ID) を設定して呼び出します。
- [MODE]キーを1回短押しすることで、個別設定の画面が表示されます。
- [▲]または[▼]キーを短押しすると「PRV」と「個」のアイコンが点灯し、個別番号の桁目点滅します。
- 個別番号が点滅中に[▲]または[▼]キーを短押しして設定します。
- [プログラマブル]キーを押すと桁が移動します。
- 点滅中に[MODE]キーを短押しするか、約5秒間放置すると個別番号が確定します。または、点滅中にPTT(通話)スイッチを押すと「PRV」のアイコンが点灯して確定し、特定の相手局を呼び出します。

手順B 自局と同じグループだけを呼び出す (GRP)

- 同じグループ内に属する全員を呼び出します。
- [MODE]キーを2回短押しすることで、グループ設定の画面が表示されます。
- [▲]または[▼]キーを短押しするか、約5秒間放置すると「G」のアイコンが点灯して確定します。または、PTT(通話)スイッチを押すと「GRP」のアイコンが点灯して確定し、グループを呼び出します。
- 注意** 設定モード「C03.MYGID」で、呼び出したいグループIDに変更することで、他のグループを呼び出すことができます。

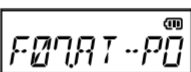
手順C 一斉に呼び出す (ALL)

- グループに関係なく一斉に呼び出します。
- [MODE]キーを3回短押しすることで、一斉呼び出しの画面が表示されます。
- [▲]または[▼]キーを短押しするか、約5秒間放置すると「ALL」のアイコンが点灯して確定し、一斉に呼び出します。

自動電源オフの設定 (F07. AT-PO)

「ON」に設定するとディスプレイに「O」が点灯し、2時間何も操作しないと電源の切り忘れとみなし、自動的に電源を切り電池の消耗を防ぎます。1分間に警告音が鳴り、電源が切れます。

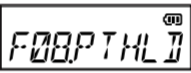
OFF (初期値)	自動電源オフの設定をOFFにします。
ON	自動電源オフの設定をONにします。



PTT ホールド機能の設定 (F08. PTHLD)

初期値「OFF」はPTT(通話)スイッチを押している間通話し、放すと待ち受けの状態になります。「ON」に設定するとPTT(通話)スイッチを押すと送信状態のままになり、もう一度押すと待ち受けの状態に戻るホールド機能付きPTT(通話)スイッチに変更することができます。

OFF (初期値)	PTT ホールド機能をOFFにします。
ON	PTT ホールド機能をONにします。

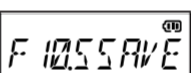


- 補足** 連続送信時間は5分以内と電波法で定められています。本機では送信を開始してから約4分50秒後に「ヒュー」と警告音が鳴ります。5分経過する前に自動で送信が止まり、待ち受けの状態に戻ります。その後1分間は送信禁止状態になります。警告音が鳴った際は、速やかに送信を中止してください。
- 注意** PTT ホールドは、トランシーバー本体のPTT(通話)スイッチのみ有効となります。(外部マイク等のオプション使用時には設定を必ずOFFにしてください。)

スーパーセーブ機能の設定 (F10. SSAVE)

「ON」に設定すると、待ち受け状態で約2秒間キー操作がないと電池バックの消耗を防ぐスーパーセーブ機能が動作します。信号を受信したときはキー操作を行うとスーパーセーブ機能は解除されます。

OFF (初期値)	スーパーセーブ機能をOFFにします。
ON	スーパーセーブ機能をONにします。

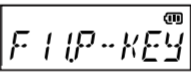


- 補足** スーパーセーブ機能を「ON」に設定すると、PTT(通話)スイッチを押して送信を始めたときに電子音が鳴ります(送信ビープ)ので、鳴った後話をしてくださいます。スーパーセーブ機能を「OFF」に設定すると、送信ビープも「OFF」になります。
- スーパーセーブ機能を「ON」に設定すると、受信中頭切れを起こすことがあります。頭切れを防止するために、相手局についてもスーパーセーブ機能を「ON」に設定することをお勧めします。

プログラマブルキーの設定と使用方法 (F11. P-KEY)

[プログラマブル]キーの動作を設定します。「SCAN」(初期値: スキャン機能設定参照)、「LIGHT」、「MUTE」の3種類から機能キーとして1つ選択することができます。

SCAN (初期値)	スキャンキーに設定します。
LIGHT	ディスプレイ照明キーに設定します。
MUTE	ワンタッチミュートキーに設定します。



ディスプレイ照明機能を使用する

あらかじめ「LIGHT」を選択すると、ディスプレイの照明キーとして動作します。[プログラマブル]キーを短押しします。ディスプレイの照明が5秒間点灯します。

5秒以内に照明を消灯したい場合:

再度、[プログラマブル]キーを短押しします。



ワンタッチミュート機能を使用する

あらかじめ「MUTE」を選択すると、音量調節ノダイヤルを回さずにワンタッチで音量をオフにすることができます。

[プログラマブル]キーを短押しします。ミュート中はディスプレイに「MUTE」が点灯し、音量をオフにします。



ワンタッチミュートを解除する:

再度、[プログラマブル]キーを短押しします。または他のキーや音量調節ノダイヤルを回すことにより解除することができます。ミュート中、3分経過すると自動的に解除します。

注意

緊急アラーム時にワンタッチミュートは動作しません。

呼び出しを受けたとき

個別通信で呼び出しを受けると、電子音(着信ベル)やLEDインジケータの点滅 (PRV: 不在着信機能動作) により呼び出しがあったことを知らせます。

- 補足** 個別通信によるLEDインジケータの表示は、「各部の名前と機能の4」LEDインジケータ」を参照してください。

特定の相手から呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、呼び出しされた相手局のIDが表示され、スピーカーから電子音が一回鳴り、受信中はLEDインジケータが水色に点滅し、待ち受け時は点灯します。

個別呼び出しで呼ばれた場合:

呼び出しされた相手局のIDが点滅表示され、LEDインジケータが水色に点灯したままになります(不在着信機能)。

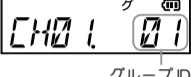
応答する場合:

PTT(通話)スイッチを押すと相手を呼び出します。

不在着信状態をキャンセルする場合:

任意のキーを短押しします。

- 補足** スキャン機能動作中で「F13:SC-RX」が「ON」の場合は、不在着信機能は動作しません。



一斉呼び出しを受けたとき

ディスプレイに、一斉呼び出しを示す「ALL」が表示され、受信中はLEDインジケータが水色に点滅し、通話待ち受け時は点灯します。



スキャン機能の設定と使用方法 (F12. SCANM, F13. SC-RX)

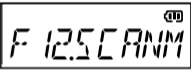
現在の通話チャンネルと事前に設定したスキャンチャンネルを自動的に切り替えモニターしながら待ち受けできます。スキャンチャンネルの初期値はコールチャンネル (CH15) が登録されています。

プログラマブルキーが「MUTE」または「LIGHT」の機能に設定されている場合は、「F11. P-KEY」を「SCAN」に設定してください。

スキャンチャンネルの登録

スキャンしたいチャンネルを事前に登録します。

CH01 ⇨ CH15 (初期値) ⇨ CH30 ⇨ CH51 ⇨ CH55 ⇨ CH55
スキャンしたいチャンネルで[プログラマブル]キーを短押しすると登録したチャンネルが「O」が点灯し登録されます。再度押すと「O」が消灯し登録を解除します。



補足

シャットアウトキー: チャンネル設定の画面時にスキャンしたいチャンネルに合わせ[プログラマブル]キーを長押しすると「O」が点灯しスキャンチャンネルが登録されます。再度押すと「O」が消灯し登録を解除します。

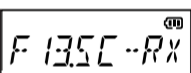
注意

緊急アラーム機能を設定している場合は、上記記載のシャットアウトキー (スキャンチャンネルの設定) は動作せず、緊急アラーム動作が優先されます。

スキャン再開の設定

着信後、スキャンを再開させるかを設定します。

ON (初期値)	通話終了後「O」が点滅し自動(約5秒)でスキャンが再開します。
OFF	着信後、スキャンは終了し、着信したチャンネルでの受信動作に移行します。



スキャン機能を使用する

[プログラマブル]キーを短押しします。

通話チャンネルと事前に登録したスキャンチャンネルをスキャンします。

- 注意** 000以外のUCコードでスキャン中に、一致しないUCコードの局が通話チャンネルまたはスキャンチャンネルで交信を続けている間は、LEDインジケータが緑色に点滅しますがスキャンは停止しません。



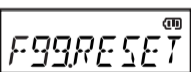
スキャンを終了する

スキャン中に[プログラマブル]キーを短押しします。

各種設定値を初期値に戻す (F99. RESET)

各種設定を初期値(ご購入時の状態)に戻します。

OFF (初期値)	設定リセットを中止します。
ON	設定リセットを開始します。



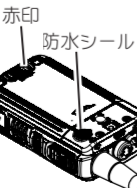
ONに設定した場合:

- 「REALLY」が表示されます。
- [MODE]キーを短押しします。「SUCEED」が一瞬表示されリセットされます。
- 電源を切り切ります。

防水性について

本機は、IEC国際規格IP67(防塵等級6)、防水等級7)の防塵、防水性能を有しています。この防水性を未劣化確保していただくために、必ずご使用になる前下記の内容をご確認ください。

- 表面の電池フタを確実にロック(赤印が見えなくなるまで)し、MIC/SP端子とUSB端子のキャップも確実に取り付けた状態でIP67を確保します。
- PTT(通話)スイッチやキーのラバー、MIC/SP端子のキャップ、USB端子のキャップ、防水シール、電池フタの湾曲部分などに、クズ、埃、汚れ、割れがないか確認してください。
- 海水砂埃などが付いたときは、ケースが曇っていないことを確認した上で、洗面器に真水を入れて洗い流し、すぐに乾いた布で拭き取ってください。
- 本機の汚れを落とす際に、鋭口からの水を直接当てたり、高圧の洗浄機やエアダスターを使用したり、スチーム洗浄をおこなってはいけません。
- 本機は、水中での使用はできません。
 - *1: 稼働中内部に入らない。
 - *2: 加圧を加えない真水・静水に水深1mの位置で30分浸しても有害な影響を生じないこと。



電波干渉について

近距離で複数のグループの人が、複数のチャンネルを使用して通話するような場合には、隣り合うチャンネル同士の間隔が狭いので、通話に支障が生じる場合があります。このよう時は、隣り合うチャンネル(例:「CH01」と「CH02」)でのご利用を避けていただき、離れたチャンネルを設定していただくことで、干渉を軽減することができます。

故障かな?と思う前に

間違った操作をしていませんか? 修理を依頼される前に、お確かめください。

- 電源が入らない!
 - 電池バックが消耗していませんか? ⇒ 電池バックを充電してください。
 - 電池バックの端子が接触不良になっていませんか? ⇒ 端子を乾いた布で拭いてください。
 - 電池バックが古くなっていませんか? ⇒ 電池バックの寿命です。新しい電池/バックをお取り替えください。
- 送信できない!
 - PTT(通話)スイッチを正しく押ししていますか?
 - 送信出力の設定が「OFF」になっていませんか? ⇒ 設定モード「F05.TXPWR」で送信出力の設定を確認してください。
 - ディスプレイに「TX INH」と表示されていますか? ⇒ 設定モード「F01.TXCH」で送信チャンネルの設定を確認してください。
- 通話できない!
 - 相手局と同じチャンネルに設定していませんか?
 - 相手局との距離が離れすぎていませんか?
 - 相手局と同じ通信方式に設定していませんか? ⇒ 設定モード「C01.CLMOD」で通信方式の設定を確認してください。
 - 相手局と同じユーザーコードに設定していませんか?
 - 秘話通話機能動作していませんか? ⇒ お互いに秘話通話機能を動作させ、更に秘話コードが一致していないと、交信することはできません。

オプション一覧表

品名	型番
ペリクルクラブ(構成品と同番)	CLP-25
リチウムイオン電池/バック(構成品と同番)	BITX
充電用ACアダプター(構成品と同番)	PA-57A
急速充電器(ACアダプターはPA-57Aを使用します)	CD-63
防滴型スピーカーマイク	MH-T3A4B*
スピーカーマイク	MH-S7A4B*
タイムアウトマイク	MH-S2A4B*
VOXヘッドセット(八重洲無線製)	SSM-64A*
キャンブルケース(八重洲無線製)	SHC-26

*: ねじ込み式の防水コネクタを使用しているため接続を必ずとめ、十分に締め込んでご使用ください。締め込みが不十分な場合、接触不良を起こし通話できないことがあります。

カタログ及び八重洲無線株式会社のホームページ <http://www.yaesu.com/jp/> を参照してください。

定格

送受信周波数: デジタル簡易無線登録局
陸上波: 351.20000MHz ~ 351.38125MHz (6.25kHz間隔、30波)
上空波: 351.16875MHz ~ 351.19375MHz (6.25kHz間隔、5波)

変調方式: 4値FSK
通信方式: 単音(フルスーク)方式
送信出力: 1W/0.5W/0.2W(+20%、-50%以内)
低周波出力: INT: 500mW以上(10%至時)

電池持続時間: BITX(構成品) スーパーセーブ機能ON時: 約13時間
スーパーセーブ機能OFF時: 約10時間
(送信出力1W時、送信5、受信5、待ち受け90の割合で運用時)

電源電圧: DC 3.7V ± 10%
温度範囲: 温度 -10℃ ~ +60℃
湿度 95% (35℃)

本体寸法: 55mm(幅) × 91mm(高) × 27mm(奥行)(突起物を含む)
本体重量: 約199g (BITX、ペリクルクラブ、MIC/SP端子キャップを含む)

※ 定格を予告なく変更することがあります。
○ RoHS 指令準拠

音声圧縮(符号化)方式について

本機は、米国 DVS 社の開発した AMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用し、AMBE+2™ に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form.
U.S. Pat. Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,754,974, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.